研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-154		17-106	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Religion, Alcohol Use and Risk Drinking Among Canadian Adults Living in Ontario.
オンタリオ在住カナダ人成人における宗教とアルコール摂取や危険飲酒との関連

執筆者

Tuck A, Robinson M, Agic B, Ialomiteanu AR, Mann RE.

掲載誌

J Relig Health. 2017 Dec;56(6):2023–2038. doi: 10.1007/s10943-016-0339-z

キーワード	PMID
アルコール、宗教、成人、人口調査、カナダ	27995442

要　旨

目的：
信仰によりアルコール摂取に対する考え方は様々である。カナダは文化的・人種的にも多種多様である国家の一つであり、200 以上の民族の起源があるとされる。本研究ではオンタリオ在住の成人を対象とし、危険飲酒と宗教との関連ならびに信仰間での危険飲酒の相違があるかどうか調査を行った。

方法：
Centre for Addiction and Mental Health (CAHMH)が主導しヨーク大学が管理する、カナダ・オンタリオ地方在住の18歳以上の成人を対象としたモニター調査で、2005年から2011年にかけて電話インタビューで得られた16,596名の年齢・性別・生誕国・婚姻状況・飲酒状況などの情報を解析に用いた。①１ヶ月のうち一度以上の5杯以上の大量飲酒機会のあるもの、②一週間に男性15杯, 女性10杯以上、あるいは1日に3杯以上の飲酒機会があるもの、③WHOのAlcohol Use Disorders Identification Testで8点以上のものを危険飲酒と定義し、宗教による危険飲酒者の割合はクロス集計表にて算出し、各宗教内での危険－非危険飲酒者の分布差をマン・ホイットニーのU検定を用い比較した。また無宗教・無神論者を参照カテゴリとした宗教と危険飲酒との関連は年齢・性別・誕生地・婚姻状況を調整した上でロジスティック回帰分析により解析を行った。

結果：
飲酒者率はさまざまであったが、アルコール摂取と危険飲酒はどの宗教グループでも見られ、危険飲酒は宗教と有意に関連していた。いくつかの信仰グループ(バプテスト・キリスト教・ヒンズー教・エホバの証人・ユダヤ教・イスラム教・ペンテコスト派・シク教など)において、無宗教・無神論者に比し、危険飲酒オッズ比は有意に低かった。さらに危険飲酒者は各信仰者が行うべき勤行への参加が有意に少なかった。

結論：
オンタリオ地方在住のカナダ人において、信仰により危険飲酒者の割合が異なっていた。信仰者において、宗教的伝統が飲酒パターンに影響を与える可能性が示唆された。